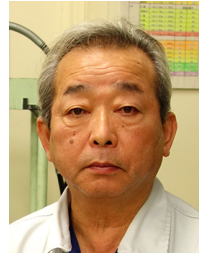


山田 哲彦さん

エムイーシーテクノ（福岡県）



鉄、ステンレス、チタン、アルミ、銅……。あらゆる素材を溶接する機会が、山田さんを育てた。化学プラントの設備工事を手掛けるエムイーシーテクノ・九州事業所で49年にわたり、溶接に向き合い続けてきた。

その間、全国溶接技術競技会で準優勝も獲得した。高い技術と指導力が評価され、黄綬褒章をはじめ、現代の名工、ものづくりマイスター、九州溶接マイスター、北九州マイスター、そして今回、日本溶接協会マイスターに選ばれた。「60歳を越えた今、振り返ると

技術管理員としての業務や溶接指導に日々忙しくするなか、空き時間に溶接の練習を欠かさない。

溶接は天職だと言える。自分の仕事に誇りが持てるということに、誇らしさを感じる」

山田さんの技能を高めてきたもの。それは探究心の強さだろう。若い頃、自身が手掛けた200以上の配管溶接がレントゲン検査で全滅した。大きなショックを受けた山田さんは、就業後にパイプを用意して同じ条件に段取りして猛特訓した。

岡山に出張した際に、協力会社の溶接士に頼み込んで当時まだ珍しかったティグ溶接のローリングを教えてもらったこともある。ティグ溶接の棒送りの技術に生かそうと、ピアニの練習にも励んだ。現在は検定試験場溶接ブースにホワイトボードを用意して、座

溶接のマイスターとして指導を行う山田さんのものには、様々な人が教えを求めてくる。15年ほど前には山口県からある男性が訪れた。「彼は『親から継いだ鉄工所で溶接するため』と必死になって指導を受け、終わる頃にはベテラン溶接士並みの腕になった。その後も溶接に関する相談などやり取りが続いて、昨年には『今の会社があるのは山田先生のおかげ』とメールが届いた」と喜ぶ。

溶接を教えるときは「アークを出す前に姿勢に注意させる。初心者は目の位置が悪く、溶融池周辺をきちんと見えないことが多い。また、できる限り溶接ブースにホワイトボードを用意して、座

溶接を教えるときは「アークを出す前に姿勢に注意させる。初心者は目の位置が悪く、溶融池周辺をきちんと見えないことが多い。また、できる限り溶接ブースにホワイトボードを用意して、座

溶接を教えるときは「アークを出す前に姿勢に注意させる。初心者は目の位置が悪く、溶融池周辺をきちんと見えないことが多い。また、できる限り溶接ブースにホワイトボードを用意して、座

溶接を教えるときは「アークを出す前に姿勢に注意させる。初心者は目の位置が悪く、溶融池周辺をきちんと見えないことが多い。また、できる限り溶接ブースにホワイトボードを用意して、座

溶接を教えるときは「アークを出す前に姿勢に注意させる。初心者は目の位置が悪く、溶融池周辺をきちんと見えないことが多い。また、できる限り溶接ブースにホワイトボードを用意して、座

と残念がる。一方で「一緒に教わった人の中で自分は何番目にうまい」と聞いている子

指導者としてもベテランの山田さんだが「溶接は奥が深く、いまだに難しい。時に、初めて聞く材料について質問されて、持ち帰って調べることがある」と言う。「溶接に

使われる材料は幅広く、メーカーの開発により材質も変化している。これからも学び続けて、指導者としての技能も持ち続けたい。そして、私が積み重ねてきたことを余さず後進に伝えられれば、それが一番嬉しい。後輩たちには私を追い抜いて、さらに上を目指してほしい」